

農業共済新聞 千葉版 投稿

掲載号	9 月 2 週号		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター	
	職名及び氏名	研究員	町田剛史
題名	トンネルを使って4～5月に業務用キャベツを出荷		
備考	【表説明】 図1 トンネルを使った4～5月どりキャベツの栽培暦		

【本文】

レストラン、コンビニといった外食・中食向けの野菜の需要が増え、これに適した栽培技術の開発が急務となっています。キャベツでは、機械によるせん切り加工や冷凍食品用の加熱調理に適した寒玉系が多く求められます。しっかり結球し、収穫までに期間がかかる寒玉系のキャベツを、開花の時期である4～5月に収穫することは困難で、冷蔵品や輸入に頼っている状況です。この端境期を解消する方法が、トンネル栽培です。

トンネル栽培で4～5月の2か月間にわたって出荷するためには、極早生の品種から少し晩生でも肥大の優れる品種までを使い分ける必要があります。「YR春空」、「かんろく」、「YR天空」の3品種をラインナップとすることで継続的な出荷が可能となります。また、播種期は、早すぎると花が発達しやすい一方で、遅すぎるとは目的とする時期に出荷できません。3品種を11月中旬から12月上旬に播種する必要があります(図1)。

被覆資材が必要な本栽培法で低コスト化を図るには、トンネル等を再利用することが有効です。例えば12月どりレタスを栽培し終えたトンネル・マルチに、キャベツ苗を定植すれば、資材費と圃場準備の労力は2作で折半することができます。この際、後作となるキャベツへの施肥に利用するのが、セル苗の培養土に肥料を混和して基肥とする方法です。被覆肥料「育苗じまん 2401-80」を株当たり4g程度施用することで生育が促進されます。

気候が温暖で消費地に近いという千葉県ならではの技術によって、4～5月の空白期間の問題が解決されることが、流通関係者から強く要望されています。県内数か所でトンネル栽培の取り組みが開始されており、大きく広がっていくことが期待されます。

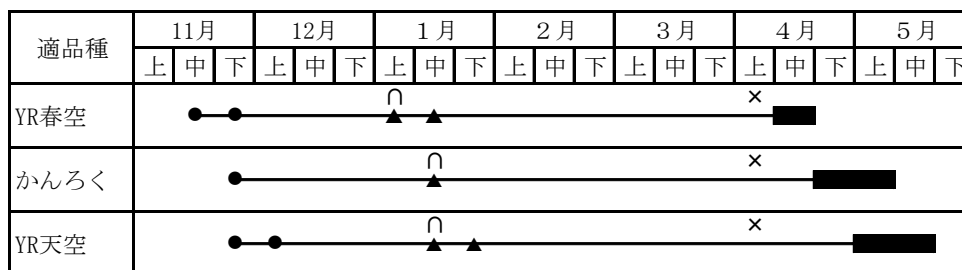


図1 トンネルを使った4～5月どりキャベツの栽培暦

注) 凡例 ●: 播種 ▲: 定植 ○: トンネル ×: トンネル除去 ■: 収穫